

<今日の説教のポイント マタイによる福音書 23 章 13～36 節 >

主が挙げられた偽善者の7つの不幸とは何か？ それに対する真の救いとは。

(1) まずは問題点の整理から それぞれの節で何を言おうとしているのか？

イエス様が、「不幸だ、可哀そうに、偽善者たちよ」と言われて挙げられる7つの内容(14節は60ページ参照)。まずは、それぞれが何を言おうとしているのか、大事な点を確認しておきましょう。

①13節：人々も自分をも、キリストによる救い(天の国)から遠ざけてしまう罪。15節につながる。

②14節：60ページ。見せかけの祈りの問題性。

③15節：異邦人を「行為による救い」に導く、誤まった熱心の罪。

④16-22節：一番大事なこと(神)に向かうことからそらせてしまう罪。

⑤23-24節：④と同種。些細なことにこだわり、より大事なことが見失われている罪。⇔ アディアフォラ(どちらでもいい)！

⑥25-28節：まさに偽善の罪。つまり内(醜い)と外(美しく見せる)の違い。

⑦29節以下：ついに神が遣わされた救い主を殺すに至る罪。

(2) この不幸に気づかされる時、神様の赦しの恵みの大きさが見えて来る！

一見、色んなことが挙げられていて何が言いたいのか見えにくい箇所ですが、以上のように整理していくと、一つははっきり見えて来ることがあります。それは、「神様が与えて下さった独り子イエス・キリストによる救いが抜けている！」ということです。色々な取り組み、色々な姿が記されています。しかし、それらは皆、イエス・キリスト(の救い)とは関係ない、私たちが考えついて取り組む行為の数々です。そして、それを行う中では、平安になるよりは、他人を見張り、間違いを見つけ、批判し、結局、「不幸」になって行くのです。この不幸の行き着く先の姿こそが、せつかく神様がその罪の姿から解放されるために与えて下さった「天の国」を閉ざす行為(14)、神の子殺しなのです！

しかし、この自分の罪の姿に気づかされる時、それはまた破格の恵みに出会える時でもあるのです！ なぜなら、そんな自分の罪を贖って赦して下さるために、神様が御子をお遣わし下さり、十字架にかけて下さったことが分かるからです。パウロはこう語っています、「『キリスト・イエスは、罪人を救うために世に來られた』という言葉が真実であり、そのまま受け入れるに値します。私は、その罪人の中で最たる者です」(テモテへの手紙Ⅰ 1:12~17 参照)。